

## 2023年度インターネット基盤整備基金資産運用状況の報告

資産運用規程第4条の定めに従い、「2023年度インターネット基盤整備基金資産運用状況報告」を行う。

(1) 運用実績 (単位百万円、数値毎に小数点以下第2位・万円の位を四捨五入)

	2022年度実績	2023年度予算	2023年度実績	備考
運用収入(a)	26.4	22.7	28.0	円安により外貨建債券からの収入増
償還損益(b)	0	0	14.4	為替要因 +48.6百万円
評価損益(c)	6.9	0	48.0	価格要因 +13.8百万円
トータル収支(d)	33.3	22.7	90.4	
期首残高(e)	1,250.1	1,257.0	1,257.0	
期末残高(f)	1,257.0	1,257.0	1,319.4	

$$(d)=(a)+(b)+(c) \quad , \quad (f)=(e)+(b)+(c)$$

(2) 償還損益・評価損益の内容

① 為替要因 +48.6百万円

～¥/US\$レート 2023年3月末@133.53→2024年3月末@151.40、@17.87円の円安

② 価格要因 +13.8百万円

・金利要因；日米での金利上昇により債券価格が低下した⇒概算で価格への影響は▲4.3百万円程度と想定される  
(米国債金利は2023年10月をピークに低下に転じているが、2023年3月末比ではなお高い水準)

・信用リスク要因；2023年3月の米銀破綻・クレディスイス問題により金融機関への見方が厳しくなり市場のセンチメントが一時的に悪化した。その後回復している⇒価格要因全体から金利要因概算額を控除した+18.1百万円程度が信用リスク要因と想定される。

(3) 資産内訳(単位百万円、数値毎に小数点以下第2位・万円の位を四捨五入／各年度決算値、期末評価後)

		2023年3月		2024年3月	
		残高	%	残高	%
債券	外貨建	378.5	30.1	445.4	33.8
	円建	694.0	55.2	595.0	45.1
現金預金		184.5	14.7	279.0	21.1
資産計		1,257.0	100.0	1,319.4	100.0

2024年3月末債券残高1,040.4百万円については、各銘柄の、リスク・パーティーの格付は全て資産運用規程の基準を充足しており、保有債券の信用リスクに現時点では著変無し。

外貨建債券比率は25%を目安としている中で、足元の円安の影響もあり、その比率は増加している。

なお2023年償還の円建債の再投資を2022年度に前倒しで行ったため、2023年度末は前年度末比円建債権が減少し、現預金が増加している。

以上